

## 会 議 録

会議の名称及び会議の回	キャリア教育推進協議会 平成 28 年度 第 1 回
開催日時	平成 28 年 6 月 20 日 (月) 午後 4 時 00 分～5 時 15 分
開催場所	飯田市役所 A 棟 3 階 301・302 会議室
出席委員氏名	代田昭久、田内市人 (代理：上沼 隆)、福田富廣、各務 誠、小澤英文、梶川 剛、今村幸子、鈴木一美、酒井正也、熊谷恒雄、市瀬 徹、三浦伸一、中井文彦、小林 弘
出席事務局職員	北澤生涯学習・スポーツ課長、近藤地育力向上係長、熊谷キャリア教育コーディネーター、氏原学習支援係長、松尾主査、高梨
会議の概要	以下のとおり

### 1 開会

#### 2 あいさつ (代田推進協議会長)

皆さんこんにちは。飯田市教育委員会に色々な形でご協力頂きありがとうございます。また本日はお忙しい中このキャリア教育推進協議会に出席頂きありがとうございます。充実した会議になって子ども達に生きるようにしていきたいと思っておりますので、本日は宜しく願いいたします。

せっかくなので私はじめて 4 月に教育長になりまして、キャリア教育推進協議会にかける想いということで少しお話をさせていただきたいと思っております。私自身はですね、教育現場に長く居たわけではなくて、8 年前より東京都杉並区立和田小学校の民間人校長として会社経営から移りました。その想いの原点はですね、子ども達の将来の事とか、もう少し具体的に言うと仕事の事とか、世の中で働く事とか、自立する事とか、そういった社会との接続をもう少し考えてあげないと、子ども達がニートやフリーターになって子ども達の資質に対して色々いう事は、かなり無責任な話だなと感じたのが、この教育現場に入る大きなきっかけです。我々の同じ世代の皆さんは、昔の就職って一生懸命勉強して大学に入って良い会社に入ればなんとなく、今やっぱり勉強しただけでは、自立することはできないし、ましてや良い大学良い会社に入ったとしても良い人生を送れるかは別問題となってきます。将来を見通す力とか、そういったことが重要となっていく時代の中で、キャリア教育とても大事だなと思っています。今日も御議論して頂きたいと思っておりますが、本当にこれから働いている人が子ども達に対して色々な知恵を授けていくということ、充分大事な事だと思います。

その中で一点だけ皆さん「キャリア」の語源ってご存知でしょうか。キャリアの語源って「<sup>わだち</sup>轍」なんですよ。車の車輪とか馬車の車輪とか轍の後のことをキャリアここが語源です。キャリア教育というのは、ここで既にメッセージがあるんですけど、先の事を見通す事は大事なんですけれども、目の前の足元をちゃん見つめ直すという意味が、既にキャリア教育の語源の中に含まれています。つまり今まで積み重ねてきた自分の歴史を振り返るその上で先を見通した教育をするというのが、キャリア教育がキャリアという言葉を選択した理由だというふうに聞いています。

飯田の強み、飯田のキャリア教育は何だと言った時の飯田の強みとか飯田が大事にしてきた伝

続や歴史をどう未来に繋げていくのかということ、先を見通すためにも足元の強みとかを残した飯田のキャリア教育が推進出来ればなあと思っています。時間も短いですし、また年度何度もある機会ではないので、この機会が非常に有意義な形で次に繋がる事を期待しております。本日は宜しく願いいたします。

### 3 自己紹介

名簿順に行う。

### 4 協議

(1) 平成 28 年度キャリア教育の取り組みについて

(2) 本年度の職場体験学習の実施について

(事務局より説明) …資料 1、資料 2

(会長)

今までの説明の中で疑問に感じた事などあればお願いします。

(A 委員)

資料の訂正をお願いしたい、資料 2 の 1 ページ 2 年生と 3 年生の体験の日数が逆になっている。

ちょうど今年度夏休みが、本校と丸山小学校の登校日がうまくずれて、3 年生の職場体験と重なっていますので、小学校の方にも 3 年生の何人か行かせて頂く形で、ちょっと市の方の事務局を利用した形ではないが、本年度ちょっとやってみようということでやっておりますので、ご理解頂ければと思います。

(会長)

キャリア教育の良さとか効果のお話を聞かせて頂いてもよろしいですか。

(A 委員)

私が来て 3 年目になっているんですけど、スタートしたのが平成 18 年度なんですけど、その前に千代地区へ農業体験に出ていたような時期もあるので、そこから数えると私が来た年がちょうど 10 年目で、今まで取り組んできたことを大事にしながら、もう一回しっかり見直していく必要があるよねという事でスタートしてやっています。

効果があるということは実感としては持っていますが、それを明確に示せるような資料データというものが出せなくて、そこを何とかしないとやっけてはきていますが、まだ明確なデータ等はありません。この職場体験に限ったことではないですけど、全ての教育活動をキャリア教育という点で位置づけて取り組んでいたりとか、羽場の公民館長さんもお見えですが、地域と生徒達の関わりの場を積極的に取り入れながら、大人とかかわる場を生徒たちに積極的に提供してきたことで、私が生徒達の様子をみていて感じるのは、大人ともちゃんと会話出来る生徒が多いんじゃないかなと思います。浜松から研修にみえた先生が本校の生徒と一緒に地域の活動

へ出て「校長先生驚きました」と言って話してくれたのが、犬の散歩をしている地域の方と出会った時、地域の方へ「こんにちは」と挨拶をするだけでなく、「可愛い犬ですね」と声掛けをするような子が居て驚かされたというような話を聞かせてくれたのですが、これはキャリア教育を大事に取り組んで、地域の方や職場の大人との関わるというそういう経験を積んできていることが大きいのかなと思います。3年生になると一回り大人びた雰囲気を持っているのかなと思っています。

(会長)

ありがとうございました。明確なデータは示せないけど、子ども達の成長みたいなところをお話頂きましたが、質問ご意見ありませんでしょうか。(3)の所は、少しご意見を頂きたいところですので(3)についてお願いします。

(3) 職場体験受入先事業所の拡大に向けて

(事務局)

各業界や団体等における人材育成、次世代育成について、また職場体験やインターンシップ等の現状についてご意見を伺えればと思います。資料等は用意しておりませんがお願いします。

(会長)

もう少し課題を明確にして頂いた方が良いでしょうと思います。

(課長)

先ほど担当の方から説明したとおり、受入事業所がなかなか増えない状況であります。実態として業界によってはこんな状況であるため受入が難しい所を率直に言っていただければ、今後来年に向けて、或いは今年追加でも、課題もあれば率直な部分で言っていただければ、それを参考にしてまた課題を踏まえて次に生かしていく、工夫できることは工夫していくという形で取り組んでいくということでご意見を頂ければということですので、率直に頂ければと思います。

(会長)

事務局からの説明を繰り返しますが、受入事業所の1つは片寄り、もう一つとしては数が足りないという課題があり飯田市キャリア教育と学校との関係性もあります。現状そんなところで受入側のお立場で色々なご示唆をいただけるような協議だと思っておりますので、どなたかそれについてご発言をいただければと思います。

(B委員)

製造業の関係で、私、羽場にありますが〇〇で、毎年受入をさせていただいております。

今日、資料の2をみさせていただきますと毎年なんですけど受入の状況ですが、受入事業所の片

寄りという点で、医療・介護・福祉がだんとつで多いんですね、次に小売販売、幼稚園・保育園で、私どものような製造業が非常に少ない。子ども達が本当にどういう職場体験を望んでいるのか、もう少しお聞かせ頂ければありがたいんですけど、医療介護、小売販売、幼稚園・保育園は非常にイメージがしやすいんですね、お年寄りだとか患者さんだとか子どもだとか物を売るとか、製造業という非常にイメージがしにくい、飯田下伊那には基本的に製造業が多いんですよ、ほんとはその受入れをもっと多く増やしたいというのが本音だと思います。じゃあなぜ製造業の方が少ないのかというポイントなんですけど、そこはやっぱり学生さんが来られて製造業で受け入れをすると、まず製品に触らせることは出来ません。それから品質や安全という面で、はっきり言うと素人に触らせるわけにはいきません。物づくりというのは危険ですよ、製品は作ってはいけませんよ、お客様に提供するものについては基本的になかなか難しいという敬遠されるものが多いんですね。

やっぱり福祉とかお年寄りだとか患者さんだとか、物を売るにしても服を売るとかの方がイメージもしやすいし、そんなに品質や安全という面ではあまりないですので、どうしても製造業はそのようなことがあるのでなかなか受け入れることが難しいということがあるので、もう少し職場体験ということであるならば、製造業とか会社で作っている製品紹介、更には製品ではなくて違った意味での製造業の体験をして欲しいというイメージでの申し入れ等お願いをしていけば、もう少し製造業の方が増えてくるのではないかと思いますし、また、各小中高でも飯田下伊那にはどのような製造業があるのか、何を作っているか、どういうことをやっているのか、もう少し学校の中で、どの位共有されているのかわかりませんが、飯田下伊那の製造業の在り方と言いますか、製造業の数だとか、どのような特徴があるのか、飯田下伊那でも世界に出せる優秀な事をやっている企業が沢山あります。そういうところをもっとPRを子ども達へしていただいて、こういう企業があって、世界のこんなところで使われている。物作りとはこんなことなんだとイメージが膨らむと製造業に興味がわいてくる。受け入れ側も、単純に受入できますかだけでは、なかなか難しいかなと思います。そういうところの部分で、今後の中でそういうことをもう少しやっていけば受け入れの方も非常にしやすいし、働く側のそういったところの体験も出来やすいんじゃないかなと思います。

(会長)

もっと製造業への受入の仕方についてを含めて検討するべきではないかのご意見ありました。それに関連して何かありますか。

(C委員)

今のことについて、私も同じように思うのですが、この協議会の内部組織の研究委員会の委員長をやらせていただいておりますが、委員会では中学校の先生方と職場体験についての話しもさせていただいています。

今日の資料にも、子ども達の受け入れについてのアンケート結果が沢山あります。その中で、子ども達のやる気がとてもある学校とあまりやる気が有るのかわからない学校もあるという指摘があり、先生方の関わり方が色々な学校があってこのへんの指導が徹底出来ていないのではない

かと、そんな反省もあります。中学の先生方が短期間に子ども達をこのように育てるといことがなかなか難しい面があります。

私は、小学校の立場から、中学だけに責任を負わせるわけにはいかないと思うのですが、ここで中学校の先生方は殆ど毎年のように担当が変わります。そんな中で企業さんとの関わり方で先生方の技量不足で迷惑を掛けていることが沢山あると思いますが、子ども達と中学校の先生の課題とする以前の問題として、小学校で9年間のキャリア教育を身に付けさせていかないといけないと思っています。その中で今お話しがあった医療介護福祉、保育園とか幼稚園とかは確かに知っている、しかし、小学校のうちから様々な職業にふれる機会が少ない、そんな所は確かにあると思います。ですから今のお話があった小学校と中学との連携の上でも課題かと思っています。丸山小学校では、現在も行っていますが、先日、地育力担当の方に来て頂いて郡外からの視察があった時も見て頂きましたが、現在も6年生が飯田の田月さんの和菓子の製造業に関わって、水引の製造業、あとは伝統文化を学ぶことなど飯田市にある産業を小学校の内に沢山学んでいます。小さいうちから企業を学ぶというよりは、企業に関わったり、または物づくりに関わっている方の、「志」とか「願い」とかそんな事を小学校のうちに共感させたいと思っています。それを持って中学に上がって3年間で、それぞれの職場へ出向いて願いとか想いを学ぶという、そんな流れが良いかなと思っています。

例えば企業では3Sとか5Sとかありますよね。実はその企業を学ぶよりは、企業が大事にしているものは何かな、効率をよく仕事をするにはどんな工夫をしているか、そんな所を中学生は学べるかな、その意味では小学校でキャリア教育は早いとかではなくて、先ほど校長先生も言っていましたけど、色々な大人の願いにふれさせる体験をさせる事を小学校でも沢山させたい。そういう事が実ってくれば、企業に出向いての職場体験が役に立つかなと思っています。小学校のうちは、色々な企業の方々がどんどん学校へ入って頂きたい、そんなふうに思っています。丸山小では去年は味噌のマルマン(株)さんが来て2年生みんなで味噌を作ってそろそろ今年の秋ぐらいには出来上ります、その時はお父さんお母さんも平日だけど来てくれていました。学校の中で企業と繋がる、そういうことを小学校のキャリア教育では是非企業の皆さんにお願いしたいと考えています。

(会長)

小中連携の対策も含めて小学校からの提案、それに関連してでも結構ですがご意見いかがでしょうか。

(D委員)

〇〇としてはいつもお世話になっております。沢山の生徒さんに来て頂いており感謝しております。生徒さん達と仕事を通じてではないですが、「ふれあい」ということを大切にさせて頂いておまして、やっぱりうちの企業自体が地域に根ざした所を目指しておりますので、そういった点で来て頂けるお客様も地元の方が多いので、接する機会を多くもってもらっています。来て頂ける生徒さんも非常に積極的といいますか明るく対応してくれておりますので、私共もありがたいなと思っています。そういった皆さんが地域の方と触れ合う事で地域に残りたいなという

ことになって頂ければいいのかなと思っております。来ていただいておりますので感謝しております。これからも是非小学生中学生が来て頂ければと思っておりますので宜しくお願いします。

(E 委員)

今お話を聞いておりますと職業安定協会としては、就職の面接会ですとか、6 月にも行ったんですが、実際にじゃあ就職の選択を考えるタイミングはどこにあるのかなと思えますと、非常に何というかまだ小学校や中学校じゃなくて、高校、更に大学を卒業する 1 年目 2 年目というのが多いんじゃないかと実感します。職業の選択の場として、この間の面接会でもそうですが「何かやりたい仕事はあるの」と聞いても「うーんまだわかりません、今考えています」、「じゃあ何でここへ来たの」と聞くと、「この地区に住んで長男だから」とそういったような理由だけだとする。

とすると今キャリア教育でやっていただいているように、皆さんから御提案があったように、この地区にはこんな会社があって非常に働きがいがあるよということをもっともっと推進していく必要があるのかな、ですから小学校中学校の中で、こんな会社でこの地元で働きたいよという体験をもっともっと積ませる中で、選択して頂けるようなそんな構造が作れると良いのかなと企業側からすると思えます。先ほど色々アンケートにありましたけど積極性に欠けるというような意見もあったと思うんですが、実際に中学生小学生に来て頂いてまだ何というか本当の仕事としては捉えていないという部分がある、そのことが企業からすると積極性に欠けるというふうに見えてしまうのではないかなと思えますので。私の提案といいますか、色々な会社が、小学校中学校、先ほど先生もおっしゃっていましたが、出向いて私の会社はこんなことをやっています。今から考えてみてはどうですか。このような活動をもっと積極的にやっていけばいいかなと思えました。

(会長)

回数や頻度みたいなことが必要だということですね。

(F 委員)

昨年だったと思うんですけど小学校におりまして、一部の会社なんですけど、その会社の事をよくわかるように書いた読本みたいなものが来ました。どこが出したのかは分かりませんが〇〇(株)さん、◇◇(株)さんとか何社かあったんですよ、ああいうものを見ると、非常に子ども達も、飯田にもこんなことをやっている、こうやって高原野菜をこうして色々な所に卸しているように勉強になるんですね。今学校へ出向いてといっても今学校はすごく忙しいので、なかなかそういう時間は取ってもらえないので、そのような子ども達対象にわかりやすく飯田の企業についてのそんなものがあるといいのかなと思いました。

私は社会教育委員をやっておりますが、母体は、いいだ人形劇フェスタを抱えているんですが、平成 28 年度学校職場体験の日程をみるとフェスタ期間中とずれてて、西中はそれに当てはまっているんですね。西中さんからは沢山来てくれていて、昨年だったか女の子達がきちんと制服を着て、お客様を出迎えてくれて、人形劇に参加する人達のもぎりをやったりしててそれを見ていて清々しい感じがして嬉しくて、あとで聞いてみると職場ボランティアの子ども達だと聞いている

んですが、やっぱり日数がずれていてフェスタにあっていないので他の学校からは人形劇フェスタには、なかなか最近参加しにくい状態になっているので、その他にも自分で自発的に参加してくれている旭ヶ丘や色んな所からけっこういるんですけれども、ちょっと人形劇フェスタの関係からいうと、飯田の地域の文化を愛して、やっぱりこれがあるから飯田に住み続けたいと思ってくれる子を育てるためには、参加してくれないと意味がないので、そんなところがじりじりしているところですが、他の色んな職場体験をやった子ども達は、最後にキャリアの発表会（キャリア教育推進フォーラム）があってここ2年位出させてもらっているんですけど、参加してみると遠山の霜月祭りを見学したり、市内の一部の子ども達ですけど、郷土に対する愛情というか郷土愛がすごく育って、すごく良い事を教育委員会やっているなって思っているの、飯田市のキャリア教育の目標があると思うんですが、郷土を愛するというを地域の中の企業に参加することで、またそこで働いている人と触れ合うことで、やっぱり飯田で働いてみたいなと思ってくれるようなそんなふうになってくれたらいいな、それにはやっぱり「会話」が必要。ただただ働くだけでなく、そこで働いている人達との「会話」が大きく影響してくるのではないかなと思いました。とりとめのないことを言ってすいません。

（G委員）

この「キャリア教育」という言葉がなかなか地域の方には理解しにくい、今日来てこうやって色々お話をお聞きすると、ああそういう教育なのかなとわかりますが、なかなか名称呼び方がなかなか、また新しくコミュニティスクールも出てきたりして、地域の方の協力が必要な教育活動にそういう難しい言葉を使うというのはどうかなという事を感じておるんですが、正式にはそういう名前があっても、地域の方との会合とかそういう時には括弧して分かりやすい言葉を使うとかそういう事も大事な、今日は、非常に具体的に説明をしていただいてキャリア教育についての理解が深まったと思います。

丸山小、西中学校は色々長年に渡って積み重ねてきていただいて、地域に対してもどんどん情報発信をしてこういうことをやっていますと常に出してくれています。学校からの情報を発信していくことも大事なと感じております。

（会長）

貴重なご意見をありがとうございました。ご発言をまだされていない方がいらっしゃいますか。

（H委員）

私も飯田青年会議所では、今回で5回目となります「南信州お仕事キッズタウン」というのを小学生を対象に行っているんですけれども、やはり先ほど意見がございましたようにもちろん小学生が対象ですので限られた時間の中なので、仕事のプロフェッショナルになるように持っていきたいとかは考えておりませんが、地元の企業さん達によって子ども達にとって地域愛が芽生える様にふれ合いをつくっていきたくて考えております。その場でも先ほど先生からもお話がありましたが、企業さんの「志」だとか「願い」を参加していただいている企業さんを通じて小学生の子ども達へ伝えていけたらいいなというふうに考えております。

是非ここにおられる企業の皆さんの参加やご協力を得られる様であれば是非ともお願いしたいと思えます。あと職場体験の参加しておられる企業の皆様にもご依頼にあがるかもしれませんが、その時はよろしくお願ひします。

(会長)

貴重な意見をありがとうございました。これからもよろしくお願ひいたします。

(I 委員)

2つ感じておるんですが、1つは子ども達の職場体験の職場って、医療・介護・福祉の職場が多くて、私たちの飯田市社協でも特養とかデイサービスセンターへ沢山の子ども達が来てくれているわけですが、その中で一番期待しているのは将来その職に就いて欲しいなという事を期待するんですが、なかなか居ないです。それは、中学の頃では無理だと思いますけれども、また10年経った中で、追跡調査が出来ていないわけですが、是非そういうものを作ってもらいたいなあ。

子どもさんが体験することは良い事だと思うが、介護人材がすごく不足しており、来て頂いてもなかなか利用者さんにおわれていて面倒をみれない、また仕事もごく簡単な仕事しか与えてやれない状況があつて、本当に介護の良い所を体験して貰ってないのですが、ただお年寄りの皆さんは来て頂くとともに喜ぶので、子ども達もそういった面では満足しているのかと思ひますけれども、是非それが将来に繋がるようになればというのが一つの願望です。

もう1つ、私は、地域でまちづくり委員会をやっているんだけど、分からないのが小中連携一貫教育とキャリア教育、ここにいるとある程度わかるんだけど、それを地域で支えようと小中連携一貫教育を支えよう、キャリア教育も協力しようと考えたら、キャリア教育で書いてあることを地域では小中連携一貫教育の中でやっているんですね。どうなっているかその辺の所が分からない、地域で何をやる、地域でやることというのは子ども達にその地域を愛してもらって将来帰ってきて欲しいことが一番の願ひでそのための行事をやっているんだけど、それはキャリア教育であり小中連携一貫教育であり同じなんだよね。そこら辺の棲み分けはする必要がないのか、かもしれませんけれども、地域にとってはわかりづらいということがあります。ですから小中連携一貫教育の中で、各中学校区毎あるいは小学校で地域に関わるといって目標を掲げてあるんですけども、そのこととキャリア教育で今日言っている事と、地域の関わりは同じかな、というふうに私は思っただけですけども、その辺りはどうなんだろうかね。

(会長)

その辺りは、庁内で一番詳しい次長の方から説明をお願いします。

(次長)

キャリア教育は、先ほど事務局の方から説明がありましたように、国県の動きを捉えて、飯田市も取り組みを始めたんですが、飯田型キャリア教育という形で言われておりますように、地域の人材や文化や伝統を活用する中でキャリア教育を行って来ていると、一定程度の評価されているものだと思ひています。たしかに先ほどから事業所の皆さんが言われています高校生と小中学



生とやっぱり自分自身のキャリア、将来の職業感を考える時期というのは全然違いますので、意味づけを相当学校側で事前の情報提供なり事前学習をしないと、やっぱりただ単にイベントになってしまう。教育委員会も学校側も少し整理をして臨まなきゃいけないかなと、何年も行ってきておりますのでその所は次に向けての精査すべき課題かなと今日の話の中でも感じたことです。小中連携一貫教育は、平成23年度から飯田市が独自に取り組んでおりまして、この目標目的は学校ですから、学力向上とこのところ多くなっている不登校対策についてどう対応するか、解決を目指して小学校6年間、中学校3年間を一環して教育していくという所が目標でございます。

このところ国や県が、学校の運営又経営自体に学校の先生・PTAだけではなかなか課題を解決出来ないの地地域の皆さんにその所に一緒に入っていただいて、その学校、地域の課題を解決していこうとする仕組みを、国や県が作り始めていまして、それが飯田市もその所へ取り組もうとしている、飯田の場合は、実は公民館を主体にしてまちづくり委員会が、既にそういう構想がある前から学校と一緒にあって、学校を支えてきた活動をして来ておりますので、私どもとしてはコミュニティスクールについては、そういう整理で臨もうと思っています。なので、ちょっと私の中ではキャリア教育とコミュニティスクールは、当然、西中学校区で教育委員会の重点であるキャリア教育をどうやってやろうかという時に住民の皆さんも入っていただいて、子ども達にどうキャリア教育を経験してもらおう、どう成果を出そうかというのは大きな課題ではあるんですが、キャリア教育というのはコミュニティスクールの中での手段であって目標ではないのかなあとと思います。余計に分からなくなってしまったかも知れません。

(会長)

このわからなさを、今年度整理するのが教育委員会の大きな仕事だと思って。多少フォローするとですね、コミュニティスクールは仕組みから入ってきたんですね、小中連携は考え方概念として飯田市が進めて来たもの、キャリア教育は日本の大きな流れで文部科学省が推進した。主体がいろんな所で発信した言葉が、整合性がとりにくいというのが実情だと思いますので、逆にそれぞれ、共通する部分とか、言葉の整理から始めるいい年かなと認識しておりますので、来年度は、みんながきちんとわかりやすく説明できるような形になるんじゃないかなとっております。よろしくをお願いします。

(I委員)

地域で支えるには、どんなことをやったら、それがキャリア教育に繋がるのか、小中連携一貫教育に繋がるのかということが分からない、分からなしに地域の人がやっているんだよね、夏祭りやったり、位置づけがわからない、何がこれがどう繋がっているのか小中連携一貫教育というのは次長が言うように、小中のはざまというかギャップを無くすそれはわかるんだけど、それだけではないんだよね、今は広がっているんだよね。広がりが多すぎてわからない。というのが実態です。是非わかるようにして下さい。何をやったらよいか示してくればありがたい。地域にね。

(会長)

ご示唆ありがとうございました。事務局では解決に向けて取り組んでいきたいと思ひます。

(J 委員)

基本的な事を聞いてしまうんですが、受入事業所の選定はどようい形でされてますでしょうか、先ほど説明があつたら申しわけないんですが。

(事務局)

選定は、学校によつてそれぞれ違ふといふのが現状であります。生徒の希望を取つて事業所へ行かせる形もありますし、逆に先生方が生徒の行く場所を決めてしまつて、君はここへ行きなさいと決めていふ学校もありますし、それぞれですね。教育委員会からリストを出してその中から選んでいただくよようになるんですが、選定にあつてはそれぞれの学校によつてやり方が違ふといふのが現状でございます。

(J 委員)

一覧を見させていいただいて思つたのが、大きな事業所さんが多いかな、個人の事業所さんとか声を掛けるとか、学校によつて違ひがあれば難しいかもしれませんが、そよういふうにすれば受入事業所も増えるのかなと。

(事務局)

事業所の大小にかかわらず依頼はさせていいただいでいるのが現状ですが、遠山中学校さんの関係でお話させていいただくと、実は中学校の方で2年生では地元の企業さんへは行かないといふことで、今までは地元の企業さんにも照会していたのですが、ここ数年1年生でそようい機会を行つていふので、2年生の体験では上村・南信濃地区以外の企業さんへ行くといふことで学校の方がやつていふみたいです。なので、上村・南信濃地区には、最初から受入の照会をしていふないのが現状です。

(J 委員)

学校毎によつてやり様や考え方があるといふことですね。

(事務局)

出来れば地元の企業さんを知つて頂く事が良いんですが、学校が選択しないといふことになつてしまつと、何がなんでも行きなさいといふ事まではお願いできないものから。なるべく本当は地元の企業さんを知つて頂く事が一番大事な部分であるとは思ひうんですが。

(J 委員)

ただ南信濃地区は事業所が少ないので、こちらへ来ているといふことですか。

(事務局)

そようです。

(委員)

それは良い事かもしれませんね。

校長先生がおっしゃられていましたが、小学校のうちに事業所の方を招いてお話をするのは非常に子ども達も興味も湧いてその後に繋がっていくのかなと思いますので、そういった取り組みが是非出来れば良いかなと思いました。

(会長)

ありがとうございました。委員の皆さんの方から頂いたご意見は、丁寧に事務局で検討して次に繋げていきたいと思えます。

一旦協議を閉じさせていただいて、5の報告を事務局からお願いします。

## 5 報告

(1) キャリア教育に関わる諸事業について

- ① 結いジュニアリーダー育成講座 (第8期生)
- ② 結いキャリアアップ体験講座
- ③ 「結いのまち飯田」第7回キャリア教育作文コンクール  
(事務局より説明) …資料3

## 6 その他

(1) 宇宙留学サマーキャンプ2016

(事務局より説明) …募集チラシ

## 7 閉会